



第3回 アメリカンフットボール大学世界選手権
2018 中国ハルビン大会
報告書



公益社団法人
日本アメリカンフットボール協会



『第3回アメリカンフットボール大学世界選手権 ハルビン大会』報告

国際大学スポーツ連盟 (FISU:Fédération Internationale du Sport Universitaire) が主催する「第3回大学世界選手権大会」は、2018年6月14日～6月24日、中華人民共和国ハルビン市で開催されました。参加国（世界ランク順）はメキシコ、日本、アメリカ、中国、韓国の5カ国で、カレッジ日本代表は2勝2敗となり、前回大会に続いて世界3位に終わり、メキシコは大会3連覇を達成しました。最終順位は、1位メキシコ（4勝0敗）、2位アメリカ（3勝1敗）、3位日本（2勝2敗）、4位韓国（1勝3敗）、5位中国（0勝4敗）となりました。

■試合結果

◇ 6月14日（木）

GAME1 [13:00] アメリカ 69 × 0 中国

GAME2 [17:00] 日本 32 × 0 韓国 雷雨により2Q途中で終了

◇ 6月16日（土）

GAME3 [13:00] メキシコ 69 × 0 韓国

GAME4 [17:00] 日本 70 × 0 中国

◇ 6月19日（火）

GAME5 [13:00] 日本 3 × 42 アメリカ

GAME6 [17:00] メキシコ 70 × 0 中国

◇ 6月21日（木）

GAME7 [13:00] 中国 0 × 42 韓国

GAME8 [17:00] メキシコ 20 × 17 アメリカ

◇ 6月24日（日）

GAME9 [13:00] アメリカ 69 × 0 韓国

GAME10 [17:00] メキシコ 39 × 3 日本

■星取表

	メキシコ	日本	アメリカ	中国	韓国	勝	負	分	順位
メキシコ		○ 39-3	○ 20-17	○ 70-0	○ 69-0	4	0	0	1位
日本	● 3-39		● 3-42	○ 70-0	○ 32-0	2	2	0	3位
アメリカ	● 17-20	○ 42-3		○ 69-0	○ 69-0	3	1	0	2位
中国	● 0-70	● 0-70	● 0-69		● 0-42	0	4	0	5位
韓国	● 0-69	● 0-32	● 0-69	○ 42-0		1	3	0	4位

【同率で並んだときの順位の決め方】

- ① 直接対決の勝ち負け
- ② 直接対決の得失点差（得点差の最大は 25 点とする）
- ③ 直接対決のタッチダウン数
- ④ 全得点数
- ⑤ 全タッチダウン数
- ⑥ コイントス

【大学日本代表チームの試合結果】

第 1 試合（6 月 14 日）

	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	Total
日本代表	22	10	-	-	32
韓国代表	0	0	-	-	0

※雷雨により 2Q 途中で終了

第 2 試合（6 月 16 日）

	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	Total
日本代表	35	14	0	21	70
中国代表	0	0	0	0	0

第 3 試合（6 月 19 日）

	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	Total
日本代表	0	0	3	0	3
アメリカ代表	14	7	21	0	42

第 4 試合（6 月 24 日）

	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	Total
日本代表	3	0	0	0	3
メキシコ代表	0	10	14	15	39



GAME REPORT

【第1試合】

-日本代表、韓国代表を圧倒、開幕戦を大勝で飾る-

現地時間 6月14日（木） 17時00分キックオフ	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
日本代表	22	10	-	-	32
韓国代表	0	0	-	-	0

ゲームサーマリー

6月14日、第3回FISU アメリカンフットボール大学世界選手権が中国・ハルビン市で開幕した。カレッジ日本代表は韓国と対戦し、前半終了間際まで32対0と優勢に進めると、降雨中断後に両チームの協議の結果そのまま試合終了。カレッジ日本代表は開幕戦を白星発進した。

13日午前中に主催者から試合の日程変更が発表され、13日に中国入りしたカレッジ日本代表は、急きよ14日に韓国と戦うことになった。いきなり苦しい船出となったカレッジ日本代表だったが、そんな逆風にも負けず、試合開始からパワー全開だった。第1QにRB 高松祥生（関西学院大学）の15ヤードTDランで先制すると、RB 川上理宇（日本大学）の13ヤードTDランが決まり、さらに2点コンバージョンも成功させて15対0とリードを広げる。なおも、副主将のRB 西村七斗（立命館大学）が9ヤードTD ランを決めて加点。第1Qで22対0とした。

第2Qに入ってもカレッジ日本代表は攻撃の手を緩めず。K廣田祐（慶應義塾大学）のFGとRB川上のこの日自身2本目となるTDランで32対0とリードを広げた。そして前半終了2分41秒、雷雨で試合中断となると、そのまま試合終了となりカレッジ日本代表の勝利が確定した。

カレッジ日本代表の守備は、韓国相手に一度もファーストダウンを更新させない鉄壁の守備を披露。パスを0ヤードに封じ込め、ランでも-1ヤードに抑える完勝劇だった。

日本は6月16日、この日の第1試合でアメリカに0対69と完敗した中国が次戦の相手となる。

＜米倉輝監督＞

--試合が途中で終了になったことに関して

チーム全体で合わせる練習機会が少なかったため、1プレーでも多くすることでコンビネーションを深めたかった。一方、中1日で試合をするタイトなスケジュールからみると体力を温存できたことは大きなメリットだと感じている。

--選手について

RB は全選手を起用でき、TD を挙げることができた。西村はいいランが出ていたが、彼の実力はあんなものではない。次戦以降はより活躍することに期待している。QB はQごとに出場選手を変えたが、田中を出そうとしていたところで中断になってしまった。次戦の中国戦では田中を多めに出すことも考えている。

DLはシリーズごとに交代出場させた。勝負には勝っていたものの、大きな差をつけることができなかつたので今後の課題。

キッカー廣田の成果はキックオフでもスコアリングキックでも良い結果を残し、及第点だった。今日はパントキックがなかったが、そこでも活躍できる選手なのでメキシコ、アメリカ戦ではキーマンに

なるだろう。

WR 佐藤はいい働きをしていた。ブレナン、高津佐がいる中で、佐藤の本番強さは目を見張るものがある。

<WR 2 佐藤凱輝>

--WR として今日の活躍について

自分の武器であるタックルされたら倒れないと、思い切りの良さを出せた。

次戦も出場機会をもらえたなら自分の武器を生かして目の前のプレーを思い切りやるだけ。

--ホルダーとしての活躍

キッカーは慶應大の廣田さんなので安心していた。

スナッパーの井若さんも合宿より精度をあげていたので結果的に全FG を決めることができた。

スペシャルプレーでTD パスを決めることができた。

練習時間が取れなかつたが、中学時代にはQB をしていた経験もあったのでそれを活かせた。

<OL 57 井若大知>

--試合が途中で終了になったことについて

日本代表チームなので個人の能力は高いが、チームとしてはまだ未熟。プレー数が少なくなった。

経験が少なくなった分、どれだけ焦っているかがポイント。今日よかつたことを話すのではなく、ミスをしてしまったことを主将として皆に伝えていきたい。

--日本代表初先発で主将になったことについて

あまりプレッシャーはない。負けの責任は取らなくてはいけないと思っているが、日本代表レベルの選手の集まりなので、個人の能力はもちろん、離合集散や意識の高さなど当たり前のことを行っている選手しかいない。試合になった時に激しいプレーができるように士気を上げることが私の役割。

--国内合宿について

アメリカ、メキシコに勝つという目標のもと、集まった選手なので厳しい場面でも自分が戦況を変えてやると全員が思っていることを感じることができた。お互いを高め合うことが意識されることだけに注力して声をかけた。チームとしてはまだまだなのでこれからまとめていきたい。

--渡航直前の試合変更について

国際大会では試合日程など何が起こるかわからないことが多々起きるということを米倉監督がおっしゃっていたので心構えはしていた。今回の予定変更も想定の範囲内。そのために国内合宿でできる準備はしてきたので覚悟も決まっていた。

主なスタッフ（主催者発表）

得点経過

1st	3:33	JPN	7-0 #22 高松 15yd Run (廣田 kick Good)
1st	8:18	JPN	15-0 #5 川上 13yd Run (廣田 pass 中辻)
1st	10:54	JPN	22-0 #32 西村 12yd Run (廣田 kick Good)
2nd	3:36	JPN	25-0 #10 廣田 26 ヤード FG
2nd	8:12	JPN	32-0 #5 川上 3 ヤード Run (廣田 kick Good)

※2Q 残り 2 分 41 秒に雷で試合終了。

日本	チーム成績	韓国
25-196	オフェンス回数-総獲得ヤード数	18- -1
15-90	ラン回数-ラン獲得ヤード数	13- -1
10-106	パス回数-パス獲得ヤード数	5-0
10 (6-4-0)	ファーストダウン数 (ラン-パス-反則)	0 (0-0-0)
3-52	ペナルティ回数／喪失ヤード数	0-0
0 (0-0)	攻撃権喪失数 (ファンブル-インターセプト)	0 (0-0)

日本 主な個人成績					
選手名	パス試投-成功	獲得ヤード	TD	インターセプト	被サック
馬島臨太郎 (法政大)	5-3	56	0	0	1
柴崎 哲平 (早稲田大)	5-4	50	0	0	0
選手名	ラン回数	獲得ヤード	TD	1回平均	
高松 祥生 (関西学院大)	5	30	1	5.6	
西村 七斗 (立命館大)	4	36	1	9.0	
川上 理宇 (日本大)	4	31	2	7.8	
馬島臨太郎 (法政大)	2	3	0	-5.0	
選手名	レシーブ回数	獲得ヤード	TD	1回平均	
佐藤 凱輝 (慶應義塾大)	2	52	0	26.0	
廣吉 賢 (立命館大)	2	31	0	15.5	
高津佐 隼矢 (法政大)	2	17	0	8.5	
鳥山 永 (中央大)	1	6	0	6.0	
選手名	タックル数	サック数	インターセプト	INTリターンyd	
長尾裕二朗 (早稲田大)	5	0	0	0	
斎川 尚之 (早稲田大)	2	0	0	0	
小田原利之 (日本大)	1	0	0	0	
中野 航平 (慶應義塾大)	1	0	0	0	
久下裕一朗 (立命館大)	1	0	0	0	
高口 宏起 (日本大)	1	0	0	0	
利根川公紀 (法政大)	1	0	0	0	
清原 淳平 (龍谷大)	1	0	1	0	



1Q 残り 3 分 42 秒に #5 川上理宇（日本大学2年）が2本目の TD。#81 高津佐選手より祝福を受ける。



1Q 残り 1 分 6 秒に #34 西村七斗（立命館大学）が3本目の TD 。



本番での強さを発揮した、#2WR 佐藤凱輝（慶應義塾大学）ホルダーとしても安定感をみせた。



GAME REPORT

【第2試合】

—カレッジ日本代表、中国に完封勝ちで2連勝

現地時間 6月16日(土) 18時00分キックオフ	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
日本代表	35	14	0	21	70
中国代表	0	0	0	0	0

ゲームサーマリー

6月16日、カレッジ日本代表は、2戦目を中国と対戦した。第1Q で35得点を奪うなど序盤から試合を優位に進め、終わってみれば70対0の圧勝だった。これでカレッジ日本代表は開幕戦の韓国戦に続き2試合連続の完封勝ちとなった。

14日の開幕戦は、降雨のため試合途中で終了となっていたカレッジ日本代表。この日は、RB高松祥生（関西学院大学）の10ヤードTDランで先制すると、続いて、初戦で出番がなかったQB田中大輔（京都大学）がWR 藤原裕貴（関西大学）へ29ヤードTDパスをヒット。さらにQB田中が16ヤードTDランを決め、カレッジ日本代表が21 対 0とリードを広げた。攻撃の手を緩めないカレッジ日本代表は、久下裕一朗（立命館大学）が2ヤードのパントリターン、RB 高松の8 ヤードランで加点。これで35 対 0となり、試合は第1Q残り1分23 秒からランニングタイムとなった。

カレッジ日本代表は、第2QにRB 高松の8 ヤードTD ランとQB 田中からWR 烏山永（中央大学）へのタッチダウンパスが決まり14点を追加。49 対 0で前半を折り返した。第3Q は無得点に終わったカレッジ日本代表だったが、第4QにQB田中がこの日自身3本目となるTDパスをWR藤原へヒット。なおも、DL藤原航（関西大学）とLB松本和樹（関西学院大学）による2つのインターセプトリターンTDで14点を加えてダメを押した。なお、カレッジ日本代表のゲーム最優秀選手には、ラン8回で69ヤードを稼ぎ、3TDを決めたRB 高松が選ばれた。

＜米倉輝監督＞

対戦相手がどこであろうと自分たちのフットボールをすることに徹した。戦術をシンプルにしたことで、迷わず力強いプレーができた。前半は自分たちのプレーに集中できていた。しかし後半は集中力が切れたシーンが多々あったのでメンタルな課題が残った試合だった。

QB田中は世界大会に出場したことがない選手なので、経験を積ませたかった。OLが完璧にプロテクションをしてくれていた中で、失敗したパスの中でも決めなければならないものは多々あったが、全体的に落ち着いてプレーした点は評価できる。

守備は後半、ターンオーバーのチャンスをすべてものにできたことには満足している。次の米国に対して、今のレベルのままでは絶対に勝てない。明日、明後日の取り組みで米国を超えるチームを作りたい。まず体をリフレッシュし、ベストコンディションにすること。新しい戦術も考えるが、迷うことなくプレーできるように理解度を高めることが重要。選手、コーチ、スタッフが一丸となって戦う。

＜RB 高松祥生＞

対戦相手がどこであれ自分がやることはスピードを生かしてランで前進するだけ。準備してきたプレ

一で前進できたのはよかったです。人生初のMVPなので素直に嬉しい。ロングゲインができたこともよかったです。これだけ活躍できたのはOLがDLを押したことはもちろん、レシーバーも最後までしつこくブロックしてくれたおかげ。米国戦は、西村、川上と共にそれぞれの長所を生かして、3人で力をあわせて勝利を目指す。

主なスタッフ(主催者発表)

得点経過				
1st	1:37	JPN	7-0 #32 西村 10yd Run (廣田 kick Good)	
1st	3:43	JPN	14-0 #82 藤原 29yd Pass from #12 田中 (廣田 kick Good)	
1st	5:51	JPN	21-0 #12 田中 16yd Run (廣田 kick Good)	
1st	6:55	JPN	28-0 #97 齊川 Punt Block #47 久下 2yd Run (廣田 kick Good)	
1st	10:37	JPN	35-0 #22 高松 8yd Run (廣田 kick Good)	
2nd	5:37	JPN	42-0 #22 高松 8yd Run (廣田 kick Good)	
2nd	9:30	JPN	49-0 #83 廣吉 12yd Pass from #12 田中 (廣田 kick Good)	
4th	2:55	JPN	56-0 #82 藤原 6yd Pass from #12 田中 (廣田 kick Good)	
4th	5:25	JPN	63-0 #90 藤原 Intercept 10yd Run (廣田 kick Good)	
4th	8:54	JPN	70-0 #40 松本 Intercept 21yd Run (廣田 kick Good)	

日本	チーム成績	中国
27-286	オフェンス回数-総獲得ヤード数	31- -6
16-167	ラン回数-ラン獲得ヤード数	13- -14
11-119	パス回数-パス獲得ヤード数	18-2
12 (6-5-1)	ファーストダウン数 (ラン-パス-反則)	1 (1-0-0)
5-56	ペナルティ回数／喪失ヤード数	6-41
3(2-1)	攻撃権喪失数 (ファンブル-インターセプト)	5(3-2)

日本 主な個人成績					
選手名	パス試投-成功	獲得ヤード	TD	インターセプト	被サック
田中 大輔 (京都大)	10-7	119	3	0	0
選手名	ラン回数	獲得ヤード	TD	1回平均	
高松 祥生 (関西学院大)	6	61	2	10.0	
川上 理宇 (日本大)	5	54	0	10.8	
田中 大輔 (京都大)	2	16	1	8.0	
西村 七斗 (立命館大)	1	10	0	10.0	
佐藤 凱輝 (慶應義塾大)	1	-5	0	-5.0	
選手名	レシーブ回数	獲得ヤード	TD	1回平均	
廣吉 賢 (立命館大)	3	60	1	20.0	
藤原 裕貴 (関西大)	2	35	2	17.5	

佐藤 喬輝 (慶應義塾大)	1	31	0	15.5	
鳥山 永 (中央大)	1	11	0	11.0	
選手名	タックル数	サック数	インターベプト	INT リターン yd	
長尾裕二郎 (早稲田大)	3	1	0	0	
木保慎太郎 (立命館大)	2	0	0	0	
田中 瑛 (慶應義塾大)	2	0	0	0	
中野 航平 (慶應義塾大)	1	0	0	0	
小椋 拓海 (関西学院大)	1	0	0	0	
斎川 尚之 (早稲田大)	2	0	0	0	
小田原利之 (日本大)	1	0	0	0	
清原 淳平 (龍谷大)	1	0	0	0	



1Q 開始早々に#22RB 高松祥生(関西学院大学)が 10 ヤードの先制 TD。



1Q の 6 分過ぎに、#12QB 田中大輔(京都大学)が 3 本目の TD で 21-0 とリードする。



QB 田中大輔 (京都大学) から#82WR 藤原裕貴 (関西大学) へ 2 本の TD レシーブ。



最優秀選手には、ラン 8 回で 69 ヤードを稼ぎ、3TD を決めた#22RB 高松祥生 (関西学院大学) が選ばれた。



GAME REPORT

【第3試合】

－カレッジ日本代表、米国に完敗で2勝1敗－

現地時間 6月19日(火) 18時00分キックオフ	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
日本代表	0	0	3	0	3
アメリカ代表	14	7	21	0	42

ゲームサマリー

6月19日、カレッジ日本代表は、いよいよ3試合目でアメリカと対戦した。しかし、開幕2連勝中のカレッジ日本代表だったが、前半で21点のビハインドを背負う苦しい展開。後半早々に3点を返したが、その後は追加点を奪えず、3対42で完敗した。

第2回大会のアメリカ戦では、試合終了間際に逆転されて金星を逃したカレッジ日本代表だったが、今回も本場相手に白星を挙げることができなかった。カレッジ日本代表は、最初のシリーズで2度のフォースダウンギャンブルを決められるなど66ヤードのドライブで先制タッチダウンを許した。次の攻撃をパントに抑えられたカレッジ日本代表は、アメリカに62ヤードのタッチダウンパスを許し、14点差に広げられた。

なおも第2Q開始早々に36ヤードタッチダウンパスを決められ、スリーポゼッション差にされたカレッジ日本代表。第2Q 残り11分43秒から始まったドライブでは、相手の反則でファーストダウンを1回更新したが攻めきれず攻撃権をアメリカに渡してしまう。それでも、次の攻撃で自陣28ヤードまで攻められるが、タッチダウンを狙ったパスをDB 荒尾亮汰（立命館大学）がエンドゾーン内で渾身のインターセプト。しかし、その次の攻撃では敵陣まで攻め入ったが得点を奪うことができず、前半を0対21で折り返した。

後半をリターンでスタートしたカレッジ日本代表は、自陣87ヤード地点から始まったドライブでQB 柴崎哲平（早稲田大学）が39ヤード、21ヤードと立て続けにパスを決めるなど敵陣まで侵入。この好機にタッチダウンを決められなかったが、K 廣田祐（慶應義塾大学）の46ヤードFGに繋げ待望の得点を挙げた。反撃の狼煙を上げたカレッジ日本代表は、オンサイドキックを成功させて攻撃権奪取。

ここでQB柴崎のパスなどでゴール前8ヤードまで攻め込み、第4ダウン5ヤードの場面でフィールドゴールを選択。しかしキックがブロックされリカバーされると、そのまま73ヤードリターンタッチダウンを決められ3対28とされた。さらにカレッジ日本代表は、次の攻撃でスリーアンドアウトに終わりパントとなったが、ここで68ヤードパントリターンTDを許した。

なおもカレッジ日本代表は続く攻撃では、自陣29ヤードでフォースダウンギャンブルが失敗に終わると、その直後の守備で25ヤードTDランを決められ、3対42。39点差となった第3Q 残り4分44秒から時計が止まらないランニングタイムになると、その後は両者得点を奪えずそのまま試合終了。カレッジ日本代表は、前回大会の雪辱を果たせなかった。

カレッジ日本代表は、パスで246ヤード獲得と207ヤードのアメリカを上回ったが、ランで16回18ヤードとアメリカの29回224ヤードに大きく水を開けられた。なお、カレッジ日本代表のゲームMVPには、オンサイドキックをカバーしたWRブレナン翼（早稲田大学）が選ばれた。

2勝1敗となったカレッジ日本代表の次戦は6月24日で、大会2連覇中のメキシコと対戦する。

主なスタッフ(主催者発表)

得点経過				
1st	4:54	USA	7-0	#15 35yd Pass from #11 (#22 kick Good)
1st	7:48	USA	14-0	#7 62yd Pass from #11 (#22 kick Good)
2nd	0:09	USA	21-0	#7 36yd Pass from #11 (#22 kick Good)
3rd	2:11	JPN	21-3	#10 廣田 46yd FG
3rd	4:20	USA	28-3	#90 FG block #6 27yd Run (#22 kick Good)
3rd	6:03	USA	35-3	#9 Punt return 32yd Run (#22 kick Good)
3rd	7:16	USA	70-0	#2 25yd Run (#22 kick Good)

日本	チーム成績	アメリカ
57-264	オフェンス回数-総獲得ヤード数	45-431
16-18	ラン回数-ラン獲得ヤード数	29-224
41-246	パス回数-パス獲得ヤード数	16-207
12(0-11-1)	ファーストダウン数 (ラン-パス-反則)	14(10-4-0)
1-10	ペナルティ回数／喪失ヤード数	5-43
0(0-0)	攻撃権喪失数 (ファンブル-インターセプト)	2(1-1)

日本 主な個人成績					
選手名	パス試投-成功	獲得ヤード	TD	インターセプト	被サック
柴崎 哲平 (早稲田大)	34-21	245	3	2	1
馬島臨太郎 (法政大)	5-1	1	0	0	0
選手名	ラン回数	獲得ヤード	TD	1回平均	
西村 七斗 (立命館大)	7	26	0	2.6	
川上 理宇 (日本大)	4	8	0	2.0	
馬島臨太郎 (法政大)	2	-3	0	-1.5	
ブレナン翼 (早稲田大)	1	3	0	3.0	
高松 祥生 (関西学院大)	1	1	0	1.0	
高津佐隼矢 (法政大)	1	-1	0	-1.0	
柴崎 哲平 (早稲田大)	1	-9	0	-9.0	
選手名	レシーブ回数	獲得ヤード	TD	1回平均	
高津佐隼矢 (法政大)	10	81	0	17.0	
ブレナン翼 (早稲田大)	5	81	0	16.2	
川上 理宇 (日本大)	2	37	0	18.5	
佐藤 凱輝 (慶應義塾大)	2	30	0	15.0	
中辻 威統 (京都大)	1	10	0	10.0	
廣吉 賢 (立命館大)	1	5	0	5.0	
西村 七斗 (立命館大)	1	2	0	2.0	

選手名	タックル数	サック数	インターセプト	INT リターン yd
小椋 拓海 (関西学院大)	4	0	0	0
荒尾 亮太 (立命館大)	2	0	0	0
小田原利之 (日本大)	2	0	0	0
神谷 康治 (中央大)	2	0	0	0
松本 和樹 (関西学院大)	2	0	0	0
須田 克志 (京都大)	1	0	0	0
斎川 尚之 (早稲田大)	1	1	0	0



USA の 29 回 246 ヤードというランプレーを止められなかった。



USA より上ったパスオフェンスの立役者の一人、#81WR 高津佐隼矢 (法政大学)



2Q 自陣 28 ヤードまで攻められるも、その後のパスをエンドゾーン内でインターセプトする、#13 荒尾亮汰 (立命館大学) だったが、その後の攻撃に生かせなかったのが残念だった。



要所でパスを繋ぎ、高津佐とともに 81 ヤードを獲得、またオンサイドキックをカバーし MVP に選ばれた、#21WR ブレナン翼 (早稲田大学)



GAME REPORT

【第4試合】

—カレッジ日本代表がメキシコに敗れて2大会連続で世界3位—

現地時間 6月24日(金) 18時00分キックオフ	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
日本代表	3	0	0	0	3
メキシコ代表	0	10	14	15	39

ゲームサマリー

6月24日、最終戦をカレッジ日本代表は、メキシコと対戦した。カレッジ日本代表は第1Qに先制するもその後追加点を奪えず、逆に失点を重ね3対39で敗れた。この結果、カレッジ日本代表は2勝2敗となり、前回大会に続いて世界3位に終わった。勝ったメキシコは3連覇を達成した。

この試合前に行われたアメリカ対韓国戦でアメリカが勝ち、優勝の可能性が消滅していたカレッジ日本代表。それでも有終の美を目指して勝利を追求したカレッジ日本代表は、メキシコの最初のドライブをスリーアンドアウトで抑える幸先良いスタートを切った。そして、直後の自陣18ヤードから始まった攻撃では、QB柴崎哲平（早稲田大学）がWR高津佐隼矢（法政大学）へ12ヤードのパスを成功させると、さらにWR廣吉賢（立命館大学）へも14ヤードのパスをヒットした。なおもカレッジ日本代表は、RB西村七斗（立命館大学）の4ヤードランとQB柴崎からWR佐藤凱輝（慶應義塾大学）への8ヤードパスでファーストダウンを更新。敵陣へ侵入すると、QB馬島臨太郎（法政大学）のパスや相手の反則もあって敵陣18ヤードまで進んだ。この好機に、RB西村の5ヤードランで13ヤードまでボールを進めると、K廣田祐（慶應義塾大学）の30ヤードFGにつなげ先制点を奪った。

第1Qはメキシコの攻撃を無失点に抑えたカレッジ日本代表だったが、第2Qに入って失点を重ねた。ランを軸に自陣までの侵入を許したカレッジ日本代表は、第2Q残り7分28秒、ゴール前6ヤードでタッチダウンランを許し逆転されると、前半残り1分29秒には30ヤードFGを決められ、3対10で前半を折り返した。

これ以上点差を離されたくないカレッジ日本代表だったが、後半開始早々にインターセプトからターンオーバーを喫して失点。さらに、第3Q残り7分4秒にも3ヤードタッチダウンを奪われた。

第4Qに入ってもカレッジ日本代表は得点を奪えず、逆に試合残り3分3秒と1分24秒に失点して万事休した。

カレッジ日本代表は、パスでは155ヤード対151ヤードでメキシコを上回ったが、ランで17ヤード対200ヤードと大きく離された。なお、この試合のゲームMVPには、DB荒尾亮汰（立命館大学）が選ばれた。

第3回FISUアメリカンフットボール大学世界選手権は、この日で閉幕した。最終順位は、1位メキシコ（4勝0敗）、2位アメリカ（3勝1敗）、3位日本（2勝2敗）、4位韓国（1勝3敗）、5位中国（0勝4敗）となった。

主なスタッフ(主催者発表)

得点経過				
1st	6:09	JPN	0-3	#10 廣田 30yd FG
2nd	4:32	MEX	7-3	#87 6yd Pass from #12 (#68 kick Good)
2nd	10:31	MEX	10-3	#68 32yd FG
3rd	1:13	MEX	17-3	#28 1yd Run (#68 kick Good)
3rd	4:56	MEX	24-3	#44 3yd Run (#68 kick Good)
4th	8:57	MEX	31-3	#16 52yd Pass from #4 (#68 kick Good)
4th	10:36	MEX	39-3	#55 30yd Intercept Run (#87 Pass from #84)

日本	チーム成績	メキシコ
63-188	オフェンス回数-総獲得ヤード数	59-341
29-29	ラン回数-ラン獲得ヤード数	33-190
34-159	パス回数-パス獲得ヤード数	26-151
13(3-9-1)	ファーストダウン数 (ラン-パス-反則)	15(8-5-2)
7-58	ペナルティ回数／喪失ヤード数	11-88
2(0-2)	攻撃権喪失数 (ファンブル-インターセプト)	3(0-3)

日本 主な個人成績					
選手名	パス試投-成功	獲得ヤード	TD	インターセプト	被サック
柴崎 哲平 (早稲田大)	21-7	85	0	2	3
馬島臨太郎 (法政大)	9-5	60	0	1	2
田中 大輔 (京都大)	3-1	14	0	0	2
選手名	ラン回数	獲得ヤード	TD	1回平均	
西村 七斗 (立命館大)	13	61	0	4.4	
高松 祥生 (関西学院大)	1	0	0	-1.0	
選手名	レシーブ回数	獲得ヤード	TD	1回平均	
ブレナン翼 (早稲田大)	4	50	0	12.5	
高津佐 隼矢 (法政大)	3	23	0	7.7	
中辻 威統 (京都大)	2	29	0	14.5	
佐藤 凱輝 (慶應義塾大)	2	17	0	8.5	
廣吉 賢 (立命館大)	1	14	0	14.0	
井上 拓也 (神戸大)	1	26	0	26.0	
選手名	タックル数	サック数	インターセプト	INT リターンyd	
松本 和樹 (関西学院大)	7	0	0	0	
小椋 拓海 (関西学院大)	5	0	0	0	
久下裕一朗 (立命館大)	4	0	0	0	
高口 宏起 (日本大)	4	0	0	0	

中野 航平 (慶應義塾大)	4	0	0	0
政岡 和志 (関西大)	2	0	0	0
木保慎太郎 (立命館大)	2	0	0	0
斎川 尚之 (早稲田大)	2	0	0	0
小田原利之 (日本大)	1	0	1	0
須田 克志 (京都大)	1	0	0	0
清家 大志 (関西大)	1	0	0	0



ゲーム MVP に選ばれた、#13DB 荒尾亮太（立命館大学）



唯一の得点となった、#10K 廣田祐（慶應義塾大学）の 30 ヤード FG



27回/7回成功、85ヤード獲得 #1QB 柴崎 哲平（早稲田大学）



9回/5回成功、60ヤード獲得 #4QB 馬島 臨太郎（法政大学）

「第3回アメリカンフットボール大学世界選手権大会」大会概要

1. 大会名称:第3回アメリカンフットボール大学世界選手権大会
2. 主催:国際大学スポーツ連盟 (FISU:Fédération internationale du sport universitaire)
3. 派遣主体:日本大学スポーツ連盟 (JUSB:Japan University Sports Board)
4. 大会日程:2018年6月14日(木)~6月24日(日)
派遣日程:2018年6月13日(水)~6月26日(火)(6月10日から国内で強化練習)
5. 開催場所:中華人民共和国 ハルビン市
哈爾濱(ハルビン)商科大学内 スタジアム
Harbin University of Commerce
No.1 Xuehai Street, Songbei District, Harbin, Heilongjiang, China
6. 参加国(世界ランク順):メキシコ、日本、アメリカ、中国、韓国
7. 選手参加資格:以下三つの条件を満たす者
 - ① 日本国籍を有する
 - ② 大学生と大学院生、および卒業後1年以内
 - ③ 28歳以下(2018/1/1時点)
8. 対戦方式
参加5カ国の総当たりによるリーグ戦を行い、順位を決定する。
【同率で並んだときの順位の決め方】
 - ① 直接対決の勝ち負け
 - ② 直接対決の得失点差(得点差の最大は25点とする)
 - ③ 直接対決のタッチダウン数
 - ④ 全得点数
 - ⑤ 全タッチダウン数
 - ⑥ コイントス



主管 公益社団法人 日本アメリカンフットボール協会

協力 日本学生アメリカンフットボール協会

遠征日程 【遠征】6月13日(水)～【帰国】6月26日(火)

出国便(中国南方航空)

(1)6月13日(水) 成田空港→ハルビン空港 (12:50→14:35) CZ6086便

帰国便(中国南方航空)

(2)6月26日(火) 長春空港→成田空港 (08:15→11:55) CZ623便

※関西地区在住者は、JR 東海道新幹線で移動

国内最終練習 6月10日(日)～12日(火) 合宿練習
於:筑波大学

関連ウェブサイト

◇大会公式サイト <http://wucaf.hrbcu.edu.cn/index.htm>

◇日本代表公式サイト <http://japan.americanfootball.jp/>

◇世界大学スポーツ連盟・アメリカンフットボール公式サイト
<http://www.fisu.net/sports/american-football>

◇日本協会公式サイト <http://americanfootball.jp/>

◇日本協会公式フェイスブック <https://www.facebook.com/JAFA1934/>

第3回 アメリカンフットボール大学世界選手権大会

2018年大学日本代表チーム

OFFENSE

Pos.	大学	氏名	ふりがな	身長	体重
OL	関西学院大学	井若 大知	いわわ だいち	174	110
OL	関西大学	小川 知輝	おがわ ともき	181	105
OL	中央大学	川西 貴太	かわにし かんた	180	120
OL	法政大学	栗田 壮一郎	くりた そういちろう	183	114
OL	関西大学	富田 優生	とみた ゆうせい	180	119
OL	神戸大学	藤川 凌	ふじかわ りょう	178	122
OL	京都大学	町野 友哉	まちの ともや	197	122
OL	日本体育大学	松村 尚悟	まつむら しょ悟	183	119
TE	法政大学	川村 淳介	かわむら ようすけ	191	96
TE	京都大学	中辻 威統	なかつじ たかのり	184	95
QB	早稲田大学	柴崎 哲平	しばさき てつpei	177	78
QB	京都大学	田中 大輔	たなか だいすけ	174	77
QB	法政大学	馬島 臨太郎	まじま りんたろう	170	72
WR	神戸大学	井上 拓也	いのうえ たくや	172	72
WR	中央大学	鳥山 永	からすやま はるか	176	80
WR	法政大学	高津佐 隼矢	こうつさ しゅんや	173	81
WR	慶應義塾大学	佐藤 凱輝	さとう よしき	180	82
WR	立命館大学	廣吉 賢	ひろよし けん	172	77
WR	関西大学	藤原 裕貴	ふじわら ゆうき	173	82
WR	早稲田大学	ブレナン 翼	ぶれなん つばさ	184	84
RB	日本大学	川上 理宇	かわかみ みちたか	171	72
RB	関西学院大学	高松 祥生	たかまつ よしき	168	74
RB	立命館大学	西村 七斗	にしむら ななと	173	82

DEFENSE / SPECIALIST

Pos.	大学	氏名	ふりがな	身長	体重
DL	中央大学	神谷 康治	かみや こうじ	175	114
DL	立命館大学	木保 慎太郎	きぼ しんたろう	188	122
DL	龍谷大学	清原 淳平	きよはら じゅんぺい	177	100
DL	早稲田大学	斎川 尚之	さいかわ なおゆき	187	117
DL	法政大学	利根川 公紀	とねがわ こうき	183	112
DL	関西大学	藤原 航	ふじわら わたる	183	105
LB	立命館大学	久下 裕一朗	くげ ゆういちろう	172	89
LB	慶應義塾大学	田中 埃	たなか えい	179	86
LB	早稲田大学	長尾 裕二朗	ながお ゆうじろう	178	85
LB	慶應義塾大学	中野 航平	なかの こうへい	175	92
LB	京都大学	中野 航	なかの わたる	178	97
LB	関西学院大学	松本 和樹	まつもと かずき	180	95
DB	立命館大学	荒尾 亮汰	あらお りょうた	183	80
DB	関西大学	市川 憲章	いちかわ けんしょう	177	85
DB	関西学院大学	小椋 拓海	おぐら たくみ	167	75
DB	日本大学	小田原 利之	おだわら としゆき	172	76
DB	京都大学	角谷 祐輔	かどや ゆうすけ	181	85
DB	京都大学	須田 克志	すだ かつし	184	85
DB	関西大学	清家 大志	せいけ たいし	179	84
DB	日本大学	高口 宏起	たかぐち ひろき	173	80
DB	関西大学	政岡 和志	まさおか かずし	182	83
DB	立命館大学	村上 知裕	むらかみ ともひろ	171	65
K/P	慶應義塾大学	廣田 祐	ひろた ゆう	173	84

COACH & STAFF

監督	米倉 輝	よねぐら あきら	エレコム神戸
コーチ	宮田 耕次	みやた こうじ	法政大学
コーチ	狩野 良太	かのう りょうた	エレコム神戸
コーチ	中村 敏英	なかむら としひで	関西大学
コーチ	竹澤 直人	たけざわ なおと	中央大学
チームドクター	反町 武史	そりまち たけし	立教大学/明治会中央総合病院
アスレティックトレーナー	大西 浩平	おおにし こうへい	立命館大学
学生トレーナー	川村 朋子	かわむら ともこ	立命館大学
学生トレーナー	中野 喬章	なかの たかふみ	日本体育大学

コーチ	小島 健吾	こじま けんご	リクシル
コーチ	蓬田 和平	よもぎた かずたか	中央大学
コーチ	和久 憲三	わく けんぞう	関西大学
コーチ	季武 憲毅	すえたけ のりき	富士通
General Manager	藤田 直孝	ふじた なおたか	立命館大学
学生マネージャー	雑賀 清汰	さいか せいた	日本体育大学
学生マネージャー	三井 恵理	みつい えり	慶應義塾大学
学生マネージャー	山本 友貴	やまもと ともき	立命館大学

■ 写真









ご声援、誠に有難うございました。



公益社団法人日本アメリカンフットボール協会